

平成十四年度 駒沢短期大学仏教科彙報

*今回は原則として平成十三年度を主とする

◇平成十三年度 短大仏教科開講科目

基礎仏教学

石井 公成
五蘊、無我、縁起など原始仏教の中心となる教理について考察し、中国や日本における仏教の変容について触れ、道元禪師・瑩山禪師の思想の特質を考察。
坐 禅 角田 泰隆 志部 憲一

前半は只管打坐、後半は坐禅に関する両祖の撰述の提唱。今年度は、『普勸坐禅儀』。
角田 泰隆

宗学研究

角田 泰隆
前期は、曹洞宗の基本的事柄について概説、後期は、両祖（道元禪師・瑩山禪師）の伝記をたどりながら、その基本的な教義について講義。
木村 誠司

仏典研究 I

「般若心経」を題材とし、有部と中観の教理を考察した。
石井 公成

仏典研究 II

初期仏教文献の漢訳をとりあげ、仏教漢文の語法に注意しつつ講義。
袴谷 憲昭

仏典研究 III

日本における仏教思想の展開を検討していくための一環として良遍の『法相二巻抄』を講読した。十三年度は巻下を読了。
袴谷 憲昭

仏教思想演習 袴谷 憲昭

日本における天台宗の仏性思想を解明するための一助として前期と後期の一時期は、最澄の『法華秀句』を中心に、その関連文献を講読し、後期の最終段階では、源信の思想背景を考察する基礎を固めるために、源信の『大乘対俱舍抄』に講読テキストを変更した。
石井 公成

仏教文学演習

石井 公成

宗学演習

角田 泰隆
『正法眼蔵』『一類明珠』巻を研究した。
テキストを分担し、毎回担当者を決めて演習形式講義。
インド・チベット仏教演習 木村 誠司

『俱舍論』『破我品』をインド撰述の注釈書を参照しつつ、講読した。
池田 道浩
インド仏教史 池田 道浩
仏教語解説 池田 道浩
仏教と人間 大西 龍峯
中国仏教史 大西 龍峯
仏典講読 大西 龍峯
中国禅宗史 須山 長治
中国古典語 須山 長治
禅籍講読 志部 憲一
仏教と現代 峰岸 孝哉
書 道 野村 宙弘
日用経典概説 晴山 俊英
宗教哲学 紺野 馨
キリスト教概説 紺野 馨
仏教特講 I 荒井 裕明
仏教特講 II 三橋 正
宗学特講 I 態本 英人
宗学特講 II 晴山 俊英

◇他学部他学科出講科目

〔大学院〕

修士課程・仏教学特講 II

石井 公成
敦煌出土の地論宗文献をとりあげ、慧遠など従来知られていた地論宗の教学や、天台宗・華嚴宗・禅宗などとの関係を明らかにしつつ講読。

〔仏教学部〕

日本仏教文化史

袴谷 憲昭

十三年度の講義を振り返って、書物の目次風に示せば、次のとおりである。序…仏教東漸―半跏思惟像 第一章…玉虫厨子と捨身供養 第二章…『往生要集』と地獄極楽 第三章…『一言芳談』と後世物語 第四章…『日本史』における仏教 第五章…『新論』の国体論と仏教 結…仏教西来―靖国問題考
中国古典語初級 石井 公成
文法の基礎を押えつつ、『老子』『莊子』『易』の要文と注釈を講読。
チベット語上級 木村 誠司
チャンキヤの『学説綱要書』の「有部」章を講読した。

『日本霊異記』を中心としつつ、印度・中国・新羅・日本の仏教説話や漢詩などを講読。
袴谷 憲昭

日本仏教史

末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチー』（新潮文庫）を教科書として、織豊期までの日本における仏教思想史の問題点について講義した。
角田 泰隆

日本禅宗史

前期は、インド・中国・日本に及ぶ禅の流れ、および禅思想の特徵について概説。後期はこれを踏まえて日本の禅宗の歴史、特に臨済宗史について講義。
木村 誠司

仏教と文化

『チベットの死者の書』を中心とし、それが、現代の仏教理解に与えた功罪について考察した。
木村 誠司

外国語仏書演習

木村 誠司
Takasaki Jikido: An Introduction to Buddhism を講読した。

仏教伝道

角田 泰隆
前期は、釈尊の伝記を学びながら仏教伝道の基本的あり方について考え、後期は宗門寺院における伝道の具体相、特に葬祭儀礼について、その意義を概説。
二二五

〔短期大学〕

仏教と人間 (国文科前半)

石井 公成

古代の呪術的信仰が現代人のうちにも生きていることに注意しつつ、世界の宗教と仏教について概説。
袴谷 憲昭

仏教と人間 (国文科後半・英文科前半)

袴谷 憲昭

芥川龍之介の『西方の人』の講読を中心に、単なる地理的や人種的な違いにとどまらない、西と東、天上と地上、文化と野蛮、若と老、有名と無名などの対立を考えながら、その中で、仏教の特徵とはなんであるかを追求してみた。
木村 誠司

仏教と人間 (英文科後半)

木村 誠司

インド・中国日本の仏教史を概観し、様々な仏教文献に触れた。
角田 泰隆

仏教と人間 (放射線科)

角田 泰隆

前期は、宗教の概念および世界の宗教について概説し、次に仏教の基本的な教義について解説。

◇教員研究活動

石井 公成

〔論文〕

『華嚴宗』(大久保良峻編『新・八宗綱要』、法藏館、二〇〇一・六)

『N-gramの可能性——仏教文献における異本比較と訳者・作者判定——』『漢字文献情報処理研究』第二号(二〇〇一・十)

『初期禅宗における摩尼宝珠(一)』『駒澤短期大学仏教論集』第七号(二〇〇一・十)

『書評『禅と戦争』』『駒澤短期大学仏教論集』第七号(二〇〇一・十)

『祖師禅の源流——老安碑文を手がかりとしてみる——』『禅学研究』第八〇号(二〇〇一・十一)

『Classifying the Geneologies of Variant Editions in the Chinese Buddhist Corpus: N-gram Based System of Variant Document Comparison and Analysis (NGSV)』『電子仏典』第三輯、東国大学電子仏典研究所、ソウル(二〇〇一・十二)

『秀禅師七札』試論——「如是順物」と善敬の關係——』『駒澤短期大学研究紀要』第三〇号(二〇〇一・三)

『シンポジウム「インド学仏教におけるコンピュータ利用の現状と展望」』榎本文雄氏と共著『印度学仏教研究』第五〇巻二号(二〇〇一・三)

『行為としての信と夢見——『日本霊異記』中巻第十三縁を手がかりとして——』『駒澤短期大学文学研究』第八号(二〇〇二・三)

〔発表〕
『Classifying the Geneologies of Variant Editions in the Chinese Buddhist Corpus: N-gram Based System for Variant Document Comparison and Analysis (NGSV)』(韓国・東国大学校、二〇〇一年五月十二日)

『敦煌発現地論宗諸文献与電腦自動異本処理』(中日敦煌仏教學術會議、北京、二〇〇二年三月十五日)

〔講演〕
『日本における初期禅宗研究の最新動向』(中国人民大学仏教与宗教理論研究所、二〇〇二年三月十六日)

〔受賞〕
鈴木学術財団特別賞(二〇〇一年六月三日)

袴谷 憲昭

〔著書〕

『唯識思想論考』(大蔵出版、二〇〇一・八)

『仏教教団史論』(大蔵出版、二〇〇二・七)

〔論文〕
『貧女の一灯物語——「小善成仏」の背景(2)——』『駒澤短期大学仏教論集』第七号(二〇〇一・十)

『ichantika(一闍提)の意味とjābhāsakāra』『仏教学セミナー』第七四号(二〇〇一・十)

『善悪不二、邪正一如』の思想背景に関する覚え書』『駒澤短期大学研究紀要』第三〇号(二〇〇一・三)

〔書評〕
『グレゴリー・シヨペン著、小谷信千代訳『大乘仏教興起時代・インドの僧院生活』』『仏教学セミナー』第七十三号(二〇〇一・五)

二二七

角田 泰隆

〔著書〕

『禅のすすめ——道元のことば』上・下(日本放送出版協会、二〇〇一・四〜七)

〔共著〕

『道元の二十一世紀』(東京書籍、二〇〇一・六)

『道元の世界』(日本放送出版協会、二〇〇一・六)

『葬儀・法事がわかる本』(大法輪閣、二〇〇一・二)

〔論文〕

『道元禅師の時間論——『正法眼蔵』「有時」を中心にして——』『駒澤短期大学仏教論集』第七号(二〇〇一・十)

『宗学再々考』『宗学研究紀要』第十五号(二〇〇一・三)

木村 誠司

『俱舍論』における、'svataksanadharaṇād dhamaḥ'の語義について』『駒澤短期大学仏教論集』第七号(二〇〇一・十)

『Taksanika(くさくさ)』『駒澤短期大学研究紀要』第三〇号(二〇〇一・三)

〔出張〕

第五十一回日本西蔵学会(二〇〇一年十一月十日、於国際文化センター)

奥野 光賢

〔在外研究〕
龍谷大学文学部、同仏教文化研究所(二〇〇一年四月一日から二〇〇二年三月三十一日まで)

〔発表〕
『吉蔵と如来蔵思想』(龍谷学会学術講演会、二〇〇一年十月二十六日、於龍谷大学)

〔公開講演会〕
二〇〇一年十一月九日、午後六時
演題 鑑真来日のなぞ
講師 浙江大学日本文化研究所所長
王 勇先生

◇研究テーマ提出者(平成十四年度)

仏教科一年

宍戸 正俊『正法眼蔵隨聞記』の研究

阿部 慈薫『現代日本の曹洞宗における住

二二八

職の意義

赤池 真也『仏教の人間観』

根岸 勝俊『正法眼蔵隨聞記』の研究(道元の伝えたかったこと)

光吉 和美『ユグヤ教と仏教の比較』

谷 亮範『鎌倉時代の仏教の歴史とその特色』

前川 雅央『東南アジア仏教における死生観について』

荻野 敦子『正法眼蔵』の言語表現

笹木原史門『輪廻転生について』

昆 剛雄『威儀即仏法、作法是宗旨について』

梅津 亮『坐禅の儀則——坐睡の誡め——』

米津 正道『玄奘三蔵について』

上杉 憲廣『日本における宗教の土着化』

石黒 宗美『追善供養について——梵網経を中心にして——』

仏教科二年
西郷 麗羅『仏教における禅定について』
荒井 道伸『曹洞宗の法式作法の意義』
耕野 夏美『現代の仏教——曹洞宗を中心として——』
大庭 桑央『曹洞宗における戒律について』

大山 義典「般若心経について」
 内田 将平「禅の人間観」
 舟見 百合「大師信仰の普及の背景」
 岩永 義弘「仏教の世俗諦的考察―仏教は一切衆生を済度出来るのか―」
 豊澤 楯彦「廃仏毀釈―仏教界への影響について」

芝田多鶴子「法相唯識に於ける五性各別に
 ついて」
 渡邊 憲章「『正法眼藏随聞記』の研究」
 辻 和明「戒名について」

◇平成十四年度短大仏教科在学生

仏教科一年

藤田 広仁「日本人の宗教観―仏教と神道」
 岩澤 庄司「上代日本の観音信仰」
 海老原修二「本願寺・一向一揆の研究」
 西澤まゆみ「道元禅師の食事観」
 『典座教訓』を手がかりとして―
 阿部 宗由「曹洞宗における葬儀の意味」
 宇田川一雄「原始仏教の『象跡喻小経』における修行道と八聖道との比較」
 立川 亮蔵「『正法眼藏随聞記』の研究」
 渡邊 幸江「坐禅と東洋医学―AM―（経絡測定機）による坐禅前後の経絡変化について―」
 三枝 美穂「原始仏教・釈尊の教えから現代（主に生物学・医療）のあり方を考える」
 鈴木 博子「やさしさと仏教」
 田中 瑞穂「海外セリブリティを引きつける禅の魅力」

六戸 正俊 小木曾崇壽
 阿部 慈薫 爾見 淳芳
 小笠原 学 楠本 功
 赤池 真也 根岸 勝俊
 落合 量 光吉 和美
 谷 亮範 前川 雅央
 原 豊 荒井 浩之
 荻野 敦子 石川 晶悟
 吉岡 義秀 笹木原史門
 昆 剛雄 尾曲 健治
 羽生 健吾 梅津 亮
 米津 正道 黒金 寿志
 並木 大輔 上杉 憲廣
 松倉 嶺元 石黒 宗美
 西郷 麗羅 荒井 道伸

◇諸係担当（平成十三年度）

耕野 夏美 大庭 桑央
 大山 義典 内田 将平
 舟見 百合 雲山 正悟
 岩永 義弘 豊澤 楯彦
 宮崎 継雄 藤田 広仁
 北山 智 岩澤 庄司
 海老原修二 西澤まゆみ
 本間 誠宏 阿部 宗由
 安西 元紀 宇田川一雄
 立川 亮蔵 渡邊 幸江
 三枝 美穂 鈴木 博子
 田中 瑞穂 二坂 佳邦
 芝田多鶴子 野呂 真一
 渡邊 憲章 辻 和明
 三橋 秀継 神崎 貴史
 原田 紘志 松永 俊彦
 長尾 靖樹 佐藤 英樹
 大紫磨寿紀 黒田 雪雄
 植村 公彦 高田 祥哉
 佐藤 裕史 嵩 佑悦

短期大学仏教科主任

石井 公成

○学内諸係

二二九

全学教授会委員 石井 公成
 自己点検・評価実施委員 石井 公成
 体育審議会委員 袴谷 憲昭
 教育人事委員会委員 袴谷 憲昭
 宗教教育運営委員会委員 木村 誠司
 情報システム委員会委員 石井 公成
 紀要編集委員 木村 誠司
 図書館委員 木村 誠司
 図書館選定委員 木村 誠司
 ○学内諸係
 論集編集委員 木村 誠司
 会計・庶務 角田 泰隆

一三〇

執筆者紹介（掲載順）

- 王 勇 (浙江大学日本文化研究所 所長)
- 袴谷 憲昭 (仏教科教授)
- 石井 公成 (仏教科教授)
- 紺野 馨 (仏教科非常勤講師)
- ジョアキン モンテイロ (仏教科非常勤講師)
- 角田 泰隆 (仏教科助教授)
- 奥野 光賢 (仏教科助教授)
- 木村 誠司 (仏教科助教授)

編集後記

▽『駒澤短期大学仏教論集』第八号をお届けいたします。本号は、例年に比べ執筆者の数こそ少ないものの、これまでに引けを取らない充実した内容になったのではないかと思っております。巻頭に掲載いたしました王勇先生の「鑑真来日のなぞ」は、題名からして興味をそそられます。鑑真は、日本に律宗を広めようとした名高い中国僧です。鑑真は、渡航にあたり苦勞を重ね、結果、失明したと伝えられています。このことは、小説に

もされ、よく知られていますが、王先生は鑑真の来日について、新しい見方を示して下さいました。先生は日中両国の歴史・文化・交渉に関する幅広い知識を持たれる気鋭の学者で、日本語を自在に操る語学の達人でもあります。その他の論文・批判・研究動向・在外研究報告も、あるものは学問的に、またあるものは話題性において、各々独自の価値を有し、読みごたえがあるのではないのでしょうか。執筆者の各先生は、それぞれ公私にわたり多忙の身ながら、律儀に〆切を守って下さいました。おかげ様で、今回も期日に間に合うように刊行することができました。執筆者の皆様にお礼申し上げます。

▽今年には本学開校百二十周年にあたります。百二十年前といえば、近代日本がようやく本格的に始まった時期です。その当時のことは、文字等を通してしか知ることはできませんが、開校したばかりの本学や新しい国造りに励む明治日本に思いを馳せるのも悪くないのではないのでしょうか。現在の日本を蔽っている停滞ムードとは、よほど違って、若々しく、健康的で、野心的な時代であったと想像いたします。ところで、野心的などという俗臭ふんぷんたるもので、仏教

の脱俗な境地とはほど遠いもののように思われるでしょう。しかし、本学のそもそもの礎を築いた道元が、時の既成仏教に疑念を抱き、海を渡り、帰朝に際し、「空手還郷」と述べたという逸話などは、その潑刺さる思えば、道元の野心という以外、適切な表現がないようにさえ思われます。健康な野心を持つことは、きわめて仏教的、禅的なのではないのでしょうか。

▽ともあれ、多くの方々の助力によって本号も無事刊行することができました。特に、日正印刷の渡部良彦氏にはお世話になりました。ここで、お世話になった方々すべてにお礼申し上げます。（編集係 木村誠司）

駒澤短期大学仏教科 仏教論集 第八号

二〇〇二年十月二十日 印刷
二〇〇二年十月三十日 発行
発行人 駒澤短期大学仏教科研究室
代表 石井 公成
発行所 駒澤短期大学仏教科研究室
東京都世田谷区駒沢一丁目
印刷所 日正印刷株式会社
東京都新宿区築地町六番地